

【特集:おらほの農地集積】

「生産組合での取り組みを導入」～農地集積目標面積の達成を目指して～

こめいずみ
米泉地区



1. 地区の概要

事業名: 県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家数: 1組織
関係市町村: 加美町(旧宮崎町, 旧中新田町)	担い手経営面積
関係土地改良区: 鳴瀬川土地改良区	実施前: 11.90ha
工期: H11~H17	H16実績見込み: 19.14ha
受益面積: 33.2ha	農地集積率: 57.6%(H16見込み)
総事業費: 354.9百万円	農地集積増加率: 45.5%()
農家戸数: 37戸	

2. 地域農業の現状と課題

当地区は、旧中新田町(羽場, 田川)と旧宮崎町(米泉)にまたがり、転作については、個別転作対応をとっていた。また、地区内は、水稲単作の中で、個別完結型農家が多数存在していた。

ほ場整備事業を契機に、担い手2名に集積を図ろうと推進してきたが、農業情勢の急激な変化と相まって、地域合意が難航し、担い手への集積が思うように進まない状況にあった。

当初計画では、個別担い手2名への農地集積目標は受益面積34.6haの内、25.3haという高いハードルであった。



【地区全景】

3. 農用地利用改善, 生産組合の設立

当初集積計画の再認識を行うために, 集落・換地委員会での協議はもとより, 地権者全体と協議を重ねた結果,

2名だけの個別担い手では農地集積目標達成は困難という結論になった。その中で、米泉集落内の数人から共同作業の話があり、その方々を中心とした生産組織の立ち上げを推し進めた。また、平成11年11月に福島県の猪苗代土地改良区管内の農地集積状況についての研修、平成13年8月には宮崎北部・宮崎東部・米泉地区担い手育成農地集積事業促進協議会先進地視察研修会で、大郷町大松沢生産組合及び南郷町の(有)イーストファームみやぎの視察が起爆剤となり、生産組合での取り組みが必要との機運が高まった。

その後、現在の個別担い手2名と新たな担い手2名の計4名で何度も話し合いを持ち、4名の意思統一と集落の合意を得て、平成16年2月に生産組合の設立となった。

H16年作付けから地区内での受託作業に取り組みたく、地権者説明会を開催した。

生産組合では、農地集積目標面積の達成を目指し、農業委員会より低い作業料金を提示し、地権者の理解を求め、4名の農地持ち込み分を合わせ耕作面積が19ha余りとなった。また、4名全てが湛水直播約3.8haにも取り組んでいる。当分は自前の機械を利用しながら、更新時期に入ったものから組合の共同物として行く方針である。今後は農政の推移を見ながら、転作等にも取り組む予定で、地区外からも受託作業を取り入れる方針である。

組合設立と並行して、行政区長等から、米泉行政区内の農地の流動化、土地利用調整を行い易くするために、「農用地利用改善組合」設立の強い要望があった。集落全戸がこの組合に参加する必要があることから、容易には全戸の同意が得られなかったが、打ち合わせを重ねていった結果、生産組織のバックアップも考慮に入れ、平成16年3月に行政区全員の同意・承認も得て設立となった。

平成16年度、この生産組織で地区内農地19.14haの水稲作業受託を実施し、農地集積率では、57.6%に達した。

今後も組合の機能を生かし、目標集積率を達成するよう、話し合いが行われている。



【湛水直播機による田植え状況】



【米泉生産組合による稲刈り状況】

4. 集積状況

目標集積増加率(81.1%) 目標農地集積率74.7%

H12実績	6.5%	20.7%
H13実績	6.1%	17.3%
H14実績	11.0%	21.4%
H15実績	24.9%	24.8%
H16実績見込み	45.5%	57.6%